

地方創生加速化交付金に係る事業実施結果報告
 (各交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

No	① 交付対象事業の名称	② 事業担当課	③ 実績額 単位:円	④ 本事業終了後における実績		⑤ 外部有識者からの評価		⑥ 実績を踏まえた事業の今後について	
				平成29年3月		事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由
				事業内容・事業効果					
1	交通拠点～定住拠点～観光拠点を結ぶシャトルバスの運行実証実験事業	企画空港政策課	8,447,020	平成28年9月から成田空港第2ターミナル駅と道の駅多古を結ぶシャトルバスを9往復(18便)増便し、現行の11往復と合わせて20往復(40便)を運行した。鉄道の無い多古町において、住民アンケートの結果、通勤・通学世代の転出が多いことがわかったことから、多古町に住みながら都市部等へ通勤・通学ができるように公共交通の拡充を図ることが目的であり、増便後の利用者については、前年度同期(9月～3月)比較で27.4%(約8,000人)の増加となった。 増便後(29年1月29日～2月4日)に実施した利用者のアンケート結果においても増便後に利用するようになったという回答や、増便されて便利になったという回答が見受けられた。また、平成28年度の利用者数は、多古町総合戦略に掲げた目標値60,000人を達成する60,281人となった。	地方創生に非常に効果的であった	・増便によりシャトルバスの利便性が向上し、利用価値が高まった。 ・引き続き利用者情報の把握に努めながら、利便性や利用者数の向上を図っていただきたい。	取組の追加等更に発展させる	多古町総合計画の第3次実施計画及び多古町総合戦略において、多古町に合った新たな雇用の場を創出するための施策として、地元企業への支援強化を目標として掲げており、具体的には工業団地を経由する公共交通機関の整備を検討することとしている。また、朝夕の通勤時間帯において工業団地を経由することで通勤者の利用を見込み、シャトルバスの運行が将来にわたって持続可能なものとするための実証運行を地方創生推進交付金を活用して実施する。 増便については、乗降調査の際に行ったアンケートにおいて、今後も引き続き望む声が多かったことや、都市部へのアクセス向上は移住・定住にもつながる重要なファクターであることから、今後も引き続き実施していく。	
2	定住拠点の交通利便性を向上させるための自転車駐輪場の整備事業	企画空港政策課	1,300,000 (1,311,000)	多古町の交通拠点である多古台バスターミナルの一角に通勤・通学者の利便性を向上するための駐輪場を整備した。設置以前は、バスターミナル内や駐車場内での駐輪が散見されたが、整備後は解消された。	地方創生に相当程度効果があった	・PR不足のためか、利用者数が少ないようである。 ・更なるPR強化を図り、利用者数の向上に努めていただきたい。	予定どおり事業終了	多古台バスターミナルへの駐輪場整備が完了したことから、事業は終了とする。 今後は、駐輪場が整備されたことについて広報たこに掲載したところであるが、未だ知らない人がいることを想定し、改めて住民への周知を図りながら、引き続き適切な管理を行う。	
3	通勤・通学モデルケースPR事業	企画空港政策課	1,446,930	シャトルバスの増便によって、多古町に住みながら都市部への通勤・通学の利便性が向上したことや充実した子育て環境をPRし、多古町への移住・定住を促進するため「電車の中吊り」「駅構内」「地域情報誌」「デジタルサイネージ」等へ多古町広告の掲出を行った。 PR事業は、その効果を数値で確認することが難しい事業であるが、電車の中吊りを見たという声が多方面から聞こえてくることから、町のPRとしては相当程度の効果があったと考える。	地方創生に相当程度効果があった	・実際に都内在住の方から電車の中吊り広告を見た旨の声を聞いており、PRの効果は上がっていると考えられる。 ・数値的な効果の把握は難しいと思われるが、引き続き町のPR強化に努めていただきたい。	事業内容を改善し継続	より効果的な手法を検討しながら、移住施策と合わせて引き続き多古町の強みを広くPRすることで人の流れを生み出していく。	
4	実態・検証調査事業	企画空港政策課	1,998,000	高齢化・多様化する社会環境に沿った、効率的で持続可能な公共交通体系を構築するため、町民アンケートと乗降調査により、空港シャトルバス・循環バス・デマンドタクシーに対する町民ニーズと現状把握のための調査を実施した。 個々の交通手段における利用実態の概要が明らかになったことや、利用者の意見等により今後の課題・検討事項の把握ができた。	地方創生に相当程度効果があった	・空港シャトルバスと循環バスとのアクセス強化など、公共交通体系全体の連携を図っていただきたい。 ・調査結果をもとに、公共交通体系の検討・再編につなげていただきたい。	取組の追加等更に発展させる	28年度は、交付金事業として実施したため、事業期間が短かったことから、現状把握にとどまった。 29年度については、28年度の調査結果に基づき、具体的な事業計画を検討しながら、公共交通体系の再編に着手する。	
5	観光コンシェルジュ育成事業	生涯学習課	336,960	観光等で多古町を訪れる外国人に対して、外国語で多古町の魅力を発信し「おもてなし」できるような人材の育成を目的として実施した。 基本的な会話の習得に重点をおいた内容とし、英語・中国語の2か国語について1講座あたり2時間程度、それぞれ6講座を開催した。 英語は26名、中国語は20名の受講があり、受講後のアンケート結果も概ね好評で、「おもてなし」の意識を醸成することができたことから、相当程度効果があったと考える。	地方創生に相当程度効果があった	・外国人ニーズの把握や外国人観光客の受入体制の強化、町内在住の外国人の把握などにも努めていただきたい。 ・町の紹介や観光情報も案内できるような内容としていくなど、引き続き段階的な取組をお願いしたい。	事業内容を改善し継続	事業終了後、受講者を対象にアンケートを実施したが、受講者からの意見としては概ね好評で、次年度も引き続き受講希望が多かったことから、次年度も英語と中国語の講座を初心者向け講座と中級者向け講座の2段階に分けて実施する。 中級者向け講座は、当初の目的である外国人向け観光ボランティアの育成を視野に入れた内容での実施を検討する。	
6	多古町魅力発信アドバイザー招聘事業	産業経済課	450,000	官民連携により地域の魅力発信を図るため、企画立案できる体制を整備するとともに、観光アドバイザーの専門的見地から適切な助言をいただくことで地域の人材育成を図り、町の魅力発信につなげるものである。 町の強みである多古米を最大限にPRするためのイベント開催の提案があったことや、各種団体等へのアドバイスにより、町の魅力発信の手法や現在の観光PRのあり方などの講演もいただいたことから、相当程度の効果があったと考える。	地方創生に相当程度効果があった	・町内飲食店のレシピや道の駅レストランのメニュー開発についても、専門的見地からのアドバイスをいただいたらどうか。	事業の継続	今後も観光や魅力発信のアドバイス等をいただくことで、観光への意識を醸成し、更なる集客や移住・定住につなげていく。	

地方創生加速化交付金に係る事業実施結果報告
(各交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

No	① 交付対象事業の名称	② 事業担当課	③ 実績額 単位:円	④ 本事業終了後における実績		⑤ 外部有識者からの評価		⑥ 実績を踏まえた事業の今後について	
				平成29年3月		事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由
				事業内容・事業効果					
7	2次交通整備事業	産業経済課	2,578,680	交通拠点(成田国際空港)と観光拠点(道の駅多古)を結ぶシャトルバスを利用して訪れたトランジット客やインバウンド客等の観光客に対し、レンタサイクル(電動アシスト付自転車)を貸し出し、道の駅周辺の観光資源へのアクセス強化を図ることで、新たな人の流れを生み出すものである。レンタサイクル開始月が延べ86名の利用があり、7か月の延べ月平均利用者は39名であることから、相当程度の効果があったと考える。また、利用開始からは冬の寒い時期でもあったことから、今後は利用者が増加すると思われる。		地方創生に相当程度効果があった	・トランジット客を中心に利用者が増えてきているようで、レンタサイクルはとても快適であるとの意見を聞いている。 ・レンタサイクルの利用に際し、町内のグルメ情報を提供できる方法を検討すべきではないか。	取組の追加等更に発展させる	新たに作成したサイクルマップの中に、観光資源である日本寺や妙光寺での体験型プログラム紹介や道の駅多古から歩いては行けなかった観光資源の場所なども取り込んだことから、ちばプロモーション協議会が検討している九十九里浜エリアでの自治体と連携した広域レンタサイクル事業も視野に入れながら、多古町に訪れていただいた方々が利用しやすく、楽しんで町の観光資源を巡れるような事業を展開する。
8	多古町魅力発信・体験事業	産業経済課	486,000	道の駅多古からの距離が遠く、活かしきれいでいなかった観光資源をレンタサイクルで訪れていただくため、体験も併せ多古町の魅力を発信できるサイクルマップ「TAKO発見&体験の旅」を作成した。道の駅多古から距離のあるロケ地を巡っていただいた投稿もあり、相当程度の効果があったと考える。		地方創生に相当程度効果があった	・商工会と連携するなどし、サイクルマップに町内のグルメ情報を追加してはどうか。 ・既存のグルメマップの修正を検討してはどうか。	予定どおり事業終了	観光資源である日本寺や妙光寺での体験型プログラム紹介や道の駅多古から歩いては行けなかった観光資源の場所などを取り込んだサイクルマップを作成したことから、事業は終了とする。今後は、さらに広報活動を強化することで、交流人口の増加につなげるとともに、ちばプロモーション協議会が検討している九十九里浜エリアでの自治体と連携した広域レンタサイクル事業も視野に入れながら、多古町に訪れていただいた方々が利用しやすく、楽しんで町の観光資源を巡れるような事業を展開する。
9	道の駅ブラッシュアップ作戦事業 「多古米・大和芋フェスティバル」・「多古米グランプリ」等事業費補助金	産業経済課	2,000,000	観光拠点である道の駅多古において、多古米、大和芋や6次産業化で開発した加工品等の販売・PRをメインとしたイベントを開催し、交流人口の増加や消費拡大を図ることができた。来場者延べ6,280人に道の駅多古を訪れていただいたことや、多古米グランプリの開催も併せて行ったことで、多古米の売上げも前年度より大幅に増加したことから、非常に効果があったと考える。		地方創生に非常に効果的であった	・グランプリ米をはじめとする入選米のPR強化や販売方法の検討が必要ではないか。 ・道の駅レストランで提供される多古米が不評なので、食味の向上に努めていただきたい。	事業の継続	今後も多古米のPRを行うことで認知度アップを図るとともに、道の駅多古の売上げや集客アップ、交流人口の増加等につながるような事業を展開する。
10	道の駅ブラッシュアップ作戦事業 「リニューアル事業」	産業経済課	846,000	観光拠点である道の駅多古を魅力ある道の駅にするため、大学生等が様々な視点、アンケート等から問題点の洗い出しを行ったことで、道の駅多古の魅力を高め、経済効果の向上や限られたスペースを最大限に活かした陳列方法等の検討の必要性が明確になった。次年度以降、調査結果を踏まえた取組に着手することで、来客数の増加が見込まれることから、相当程度の効果があったと考える。		地方創生に相当程度効果があった	・指摘のあった内容については、できるだけ早急に対応すべきである。 ・消費者の購入意欲が高まるような配置を検討するなど、道の駅の更なる改善に努めていただきたい。	取組の追加等更に発展させる	大学生によるインタビュー、レストラン美食調査、レストランアンケート調査や実地調査(建物外回り、内部、物販店舗、商品陳列方法、売り場ゾーニング、客の動線、ディスプレイ商品管理等)の結果を踏まえ、改善すべき点の解消を図りながら、魅力ある道の駅多古となるような事業を展開する。

No	本事業における重要業績評価指標(KPI)	当初値(申請時)	本事業終了時(平成29年3月)		3年後		⑦ 外部有識者からの評価(事業の評価)
		(平成28年3月)	指標値(目標値)	実績値	指標値(目標値)	年月	
1	シャトルバス実証運行利用者数(年度)	—	10,000人	14,130人	20,000人	平成32年3月	地方創生に非常に効果的であった
2	多古米・大和芋イベント参加者	—	500人	6,280人	2,000人	平成32年3月	地方創生に非常に効果的であった
3	道の駅での雇用創出	31人	32人	30人	35人	平成32年3月	地方創生に効果があった
4	道の駅多古売上高	578百万円	584百万円	556百万円	620百万円	平成32年3月	地方創生に効果があった

※⑤・⑦【事業の評価】について

「地方創生に非常に効果的であった」・・・KPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合

「地方創生に相当程度効果があった」・・・目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合

「地方創生に効果があった」・・・・・・目標値の達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合

「地方創生に効果が無かった」・・・・・・実績値が事業開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合